

1 はじめに

新居浜支部では、今年度より支部内全ての小・中学校にタブレット端末、書画カメラ、電子黒板が整備された。また、来年度入学の1年生からは、タブレット端末が一人一台配備する計画が持ち上がっている。これらを使って何ができるのかを知り、どのように活用して授業改善を図っていくのかの実践研究に取り組んだ。また、新居浜市は来年度4月より「統合型校務支援システム」を四国中央市と共同で導入することが決まっており、指導要録、通知表、成績処理などのあらゆる校務をコンピュータで行うことになる。新居浜市教育委員会が中心となり、新居浜支部研究部とも連携して、各校の担当教員を集め、新年度がスタートした時点で十分に活用出来るよう研修を行っている。また、学校ホームページが旧スタイルのままの学校に呼び掛けをし、ホームページ構築研修を行うなど、変化の激しい時代にICTを十分活用できる態勢を整えるよう活動した。

2 実践事例

(1) 電子黒板操作研修会（令和元年8月9日）

夏季休業中に、視聴覚・情報教育同好会による研修会を行った。新居浜市立泉川小学校にて、市内の全教員を対象に新居浜市教育委員会と連携して開催した。2学期より各校に整備されるタブレット端末、電子黒板、書画カメラを各教職員が効果的・効率的に活用できるようになることを目的とし、研修を行った。用意した座席が足りなくなるほどの参加者があり、盛況であった。



(2) 校務支援システム操作研修（令和元年8月22日）

教職員の情報活用能力の向上を図るための研修を新居浜市教育委員会が実施した。令和2年度から本格運用される統合型校務支援システムの利用方法を、集まった各校の担当者に理解していただき、学校の中心となって操作したり、操作法を他の教諭に教えたりして、活用を促していく予定である。第2回の操作研修会では、進級処理の研修を行い、年度の更新に備えた。

(3) 学校ホームページ構築研修

学校のホームページが旧スタイルのままの学校に呼び掛け、CMSによるホームページ運用ができるよう構築研修を行った。対象となるほとんどの学校が参加して、講師の先生に質問をしながらその場で構築していった学校もあった。

3 成果と課題

各教室に配備された電子黒板などを使って、分かりやすい授業づくりを実践している教員が増えてきている。しかし、すべての教職員が活用できるようになるためには、使い方の研修や実践事例の共有などが必要であると考えます。変化の激しい時代にICTを十分活用できる態勢が整いつつあるので、教員もそれに対応できる能力を身に付ける必要がある。

来年度より導入される統合型校務支援システムによって、学校に勤務時間が短縮化されると期待されるが、運用がスムーズに行えるように視聴覚・情報教育主任が中心となって、研修を重ねていく必要があると考えます。